

(前 国立長崎医療センター 看護部長)

## 杉原 三千代 様に 聞く

現 公益社団法人 佐賀県看護協会 事業部長

退職にあたり、いま感じていること

司会 国病久原会 副会長

出口 八重子

国病久原会 OB 連絡会メンバー

吉田 典子

インタビュー日時 2018年6月5日 (火) 14:00~14:30

場所 長崎医療センター10階食堂

司会) 今日はお忙しいところ、ありがとうございます。この度退職なさいまして、本当に長い間ご苦労様でございました。

杉原さん) ありがとうございます。

司会) 長崎医療センターに勤務なさって何年ですか。

杉原さん) 最後は看護部長として4年です。

司会) その前に師長さんとして、

杉原さん) そうです。看護師長として5年3ヶ月勤務しました。

司会) 中病棟と医療安全を担当なされたということで、大変ご苦労が多かったと思いますけれども長崎医療センターで特

に印象深かったことは何でしょうか。

杉原さん) 新病院での病棟移転ですね。安全に引っ越しができるように、日通さんと打合せし、タイムスケジュールにそってシミュレーション後、引っ越したことですかね。

司会) 新病院になることですね。

杉原さん) 移転時は外泊できる患者さんには外泊をしてもらっていたので、それほど迷惑をかけなかったし、…何といても、目標に向かってスタッフ全員が一致団結でき、移転が無事終了し達成感を味わったことですね。それと私は、二交替反対の最中、二交替制勤務が導入されたばかりの中病棟に着任しました。確か私が当直で夜間帯に入院の依頼をしたら「そういう約束にはなっていない」と言う反発がありました。しかし、看護師はいつでも患者さんの事を第一に考えます。話せばわかってくれるスタッフで、話し合いを重ねることで、二交替制勤務でも夜間の入院を受け入れるようになりました。

司会) 協力的。

杉原さん) そう。協力的でしたよ。

司会) すごく前向きなスタッフの方が多かったですよ。

杉原さん) 凄く前向きでしたし、楽しく仕事をさせてもらいました。医療安全は立ち上げの3か月間です。

司会) 一人で活動でしたね。最初の医療安全では。

杉原さん) はい。部下はいないし、いろんな悩みとかを一緒に共有する人がいなかったのも、凄く寂しい思いをしました。その時の診療部長が向原先生でした。向原先生と話をしながら進めていきました。医療安全のメンバーが毎日午後から来て、一緒に活動しました。だんだん医療安全の重要さを味わった感じでした。また、今回、看護部長として戻って来た時には、外来も出来ていて、凄く立派な病院になったなあという印象を持ちました。来て病院機能評価3rdG Ver1を受審しました。この時も一致団結でした。その次は特定共同指導を受けました。保険診療における指導監査で、多額の金額を返還することもある厳しいものです。医師を始め、すべての人が協力して、その特定共同指導に乗り越えたという感じがします。時間外にそれこそ症例を、保険医療に則り適正なルールになっているか、点数を取っているけどそれに見合う

医療を実施しているかとか、記録があるかとか、そういうことを全部見ていくのですよ。

司会) 症例の内容を…

杉原さん) 本番の時、当日は20人くらい見えたでしょうか。全部で50症例くらい、入院と外来とずっと見られました。ちょうどその前に、長大の方が先に受審されていて、大学の先生の指導を頂きました。濱脇先生や、総合心療内科の岩永先生、小児科の本村先生、外科の黒木先生とかが経験されていて、その先生たちがサーベーターになって、ずっと訓練を受けたのです。その時に医師がとても協力的でした。医者と看護師だけじゃなくて、リハビリも栄養も放射線科も事務も。すべてが協力しました。

司会) まさにチーム医療。

杉原さん) そう、そうですね、チームの力を実感しました。結果的に驚くほどの金額で収まって、皆が目標に向かって同じ方向を向いて動いていく病院だなあっと感心しました。

司会) 長崎医療センターはやっぱり、何事かがあるときに一致団結していくという…

杉原さん) そう、底力があるっていうか。

司会) 気持ちがいいですね。そして、横の連携っていうのがより強固になっていく。

杉原さん) 電子カルテも全部きちんとしていかなければいけないし、日常の業務や診察をしながら、特定共同指導に向けて整えていくというのはすごく大変だったと思うのですね。だけど、その分苦労はあったけれども、凄く達成感がありましたね。

司会) そういう検査を乗り越えて、その自分たちの結束というのが強まってということですね。

杉原さん) そうですね。それと改善すべき点が改善できたことですかね。

司会) 国病久原会がずっと続いていっているのは、こんなところですよ。昭和の頃の人たちも、その時代のこういう体験で繋がっているし…。

杉原さん) それと、新しいことにチャレンジする病院ですね。診療看護師がいたんですよ。

司会)研修を終えて・・・

杉原さん)そう。東京で2年間の研修を終えて、戻ってきた人が4人いたのですよ。2人は機構のうちの職員で、あと2人はその時に採用になった2人です。そういう風に新しいことにチャレンジするという、そういう病院だなあっていう感じでした。

司会)診療看護師さんというのは本来医師が少ない病院で期待される・・・

杉原さん)ももとはそうですね。看護師の業務拡大です。

司会)配置をされて、目的があるんですよね。

杉原さん)看護の動向の中でも、特定行為の認定を持った看護師を育てるための研修が推奨されています。

今後、いろいろな看護師が存在するようになります。認定看護師、専門看護師でしょ、特定行為を認定された看護師、で、その診療看護師は全部を特定行為ができる看護師と、トップとしては将来を見据えて、その人たちをどう人材活用していくか考えていかなければいけないですね。今後、日本看護協会では認定看護師の教育はカリキュラムを検討し、特定行為ができるような部分を組み込んだ認定教育のカリキュラムにしようという流れになっています。いろいろな教育課程の人をどう活用していくか、難しいですね。

司会)そしたらより専門性が高くなるわけですね。

杉原さん)どうしても2025年の部分で、地域包括ケアでは、たまに病院、ほとんど在宅という風な形の流れになっているので、そういうところで活躍する看護師さんという形になるのかな？と思いますけどね。だからうちに急性期で診療看護師さんがいるわけですが、JNPって機構ではいますでしょ。その人たちをどういう風に活用していくかなあというのが、やっぱり課題になるのかなって、そういう風にやっぱり先に先に新しいことに取り組みまれる病院だなあって思います。

司会)今、看護協会で働かれているそうですけれども、病院と地域と違いがあると思うのですけれど・・・、

杉原さん)そうですね、地域って言うか、今、私は看護協会で、主に教育研修を担当しているのですね。佐賀県の看護の底上げをしていくかと言う事が課題です。

司会)それだけナースはピンキリで働いているということですね。

杉原さん)そうです。私が看護協会に縁があったのは、たまたま看護学校時代の先生からのお声掛けです。看護管理者の教育を手伝ってくれないかということで行ったのですね。自分が看護管理が十分できてたわけじゃないんですけど、管理者もそれだけ手がいるっていうのを感じますね。師長になる前の人たち。副師長さんとかね。今やっぱり管理者を育てていかなければ、施設はよくなるんじゃないかなあと思っています。管理者教育のお手伝いができればということで、お世話になっています。

司会)看護協会はファースト、セカンド、サードで。

杉原さん)佐賀はサードはないです。ファーストとセカンド

司会)サードというのは管理者ですか。また別にありますよね。

杉原さん)いや、3つです。ファースト、セカンド、サード。そして認定の看護管理者の試験を受けるという

司会)試験を受けてってというサードの教育を受けたあとの認定ということですね。

杉原さん)そうです。

司会)もう現場を離れてかなり時間が経って現状把握ができていないので。

杉原さん)今から先の医療に携わる人たちなので、この人たちに自分が経験してきたことを伝承することで、少しでも何かの役に立てればいいかなあという風に思います。

司会)このファーストやセカンドを、医療センターの看護師さんが受けようと思えば、これは自分の時間ですのですね。

杉原さん)そうですね。是非どんどん、どんどん受けた方がいいのではないかなと私は思います。

司会)地域の病院では、極力この看護協会のファースト、セカンドを受けるようにと一言を管理者が勧めてますもんね。それは昔からその傾向がありますよね。

杉原さん)機構は新任の師長の研修だとか新任の副部長の研修だとか、新任の看護部長の研修とかはありますけども、

やっぱり系統だった管理を学ぶ必要があると思いますね。視野が広がりますしね。

司会) 違った新しい環境で。

杉原さん) 毎日、学ぶことはたくさんあります。

司会) 今後、地域の中で生活をされていくわけですが、それでも仕事と自分の生活というバランスを、そしてどう自分の生活を広げていこうかと言う様な考えをお持ちでしょうか？

杉原さん) 今はまだ働いているので、働いているっていつでも時間に余裕は出来ました。

司会) 時間？ それは余裕？ですか。

杉原さん) そう。時間という財産と言いますか。

司会) 自分の時間？

杉原さん) そう。

司会) 宝の時間。

杉原さん) 時間を、どういう風に使っていこうかあと考えています。人生 100 年時代と言われてます。私は足腰が元気で、健康に留意しながら、と思ってますけどね。だから自分が元気に生活していけるために、そこに投資をしたいと思ってます。

司会) 寝たきりの 10 年 20 年ではなくて、やはり活動できる、最後まで元気にということですね。ほんとそれを目標としてありますよね。私たちも。

杉原さん) そういう風に思っています。

司会) 何か趣味をおもちですか。

杉原さん) 神社仏閣巡りと古事記の独学、そして仕事かな？新しい環境で今の仕事から学ぶことが多いんです。

今まで、他の人たちがしてくれていたようなことを、一から自分でしていくんですが、そのプロセスが新鮮です。

司会) 今から開拓をされてですね。

杉原さん)そうですね。

司会)今日は、ほんとお忙しいところありがとうございました。重責のあるお仕事を全うされ、奮闘されてこられた言葉や情熱までも伝わってきて、意義深い対談になったと思います。

杉原さん)いいえ。ありがとうございました。

司会)また、国病久原会の会員となっていただきました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

杉原さん)こちらこそよろしくお願いします。